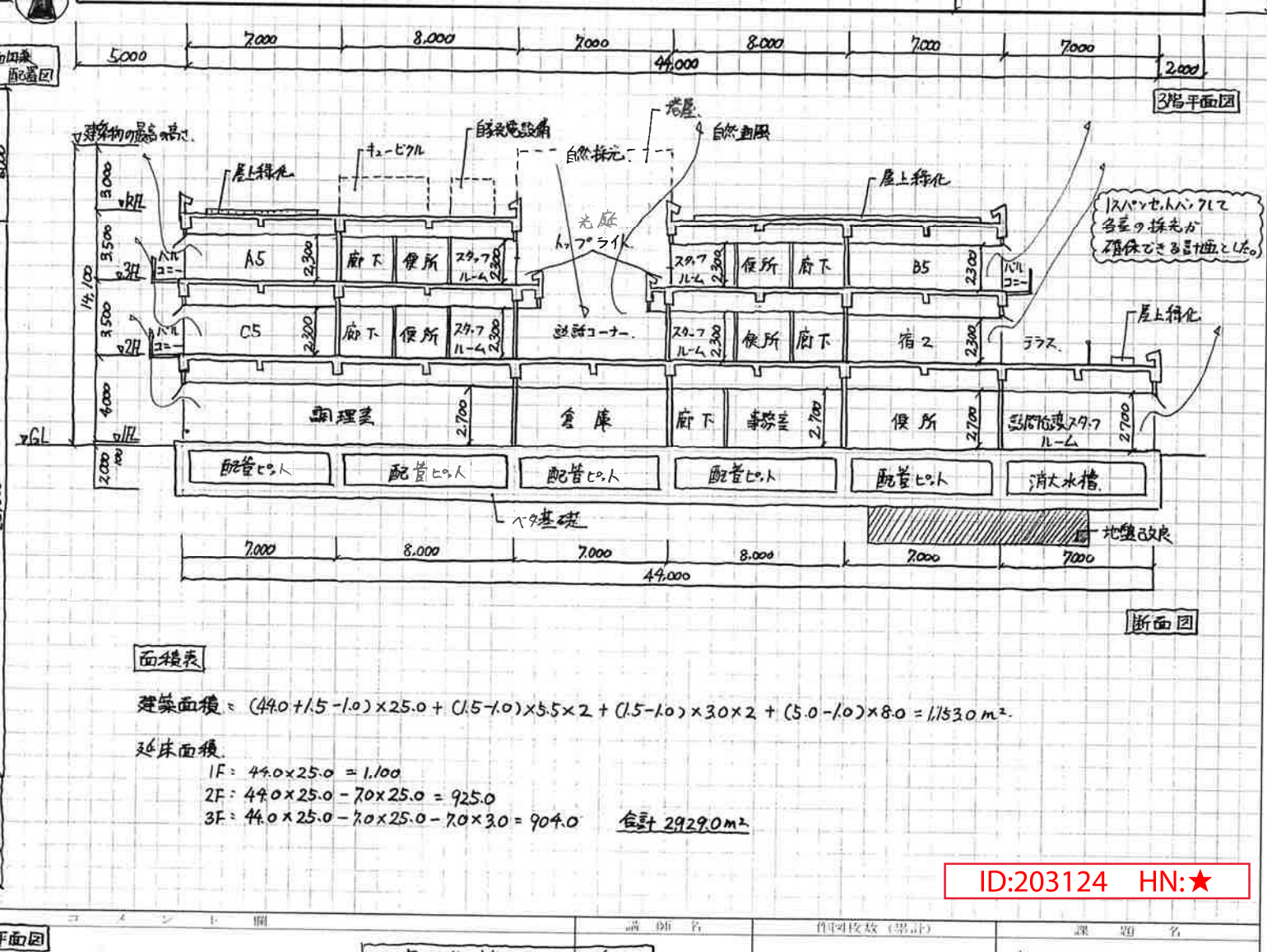
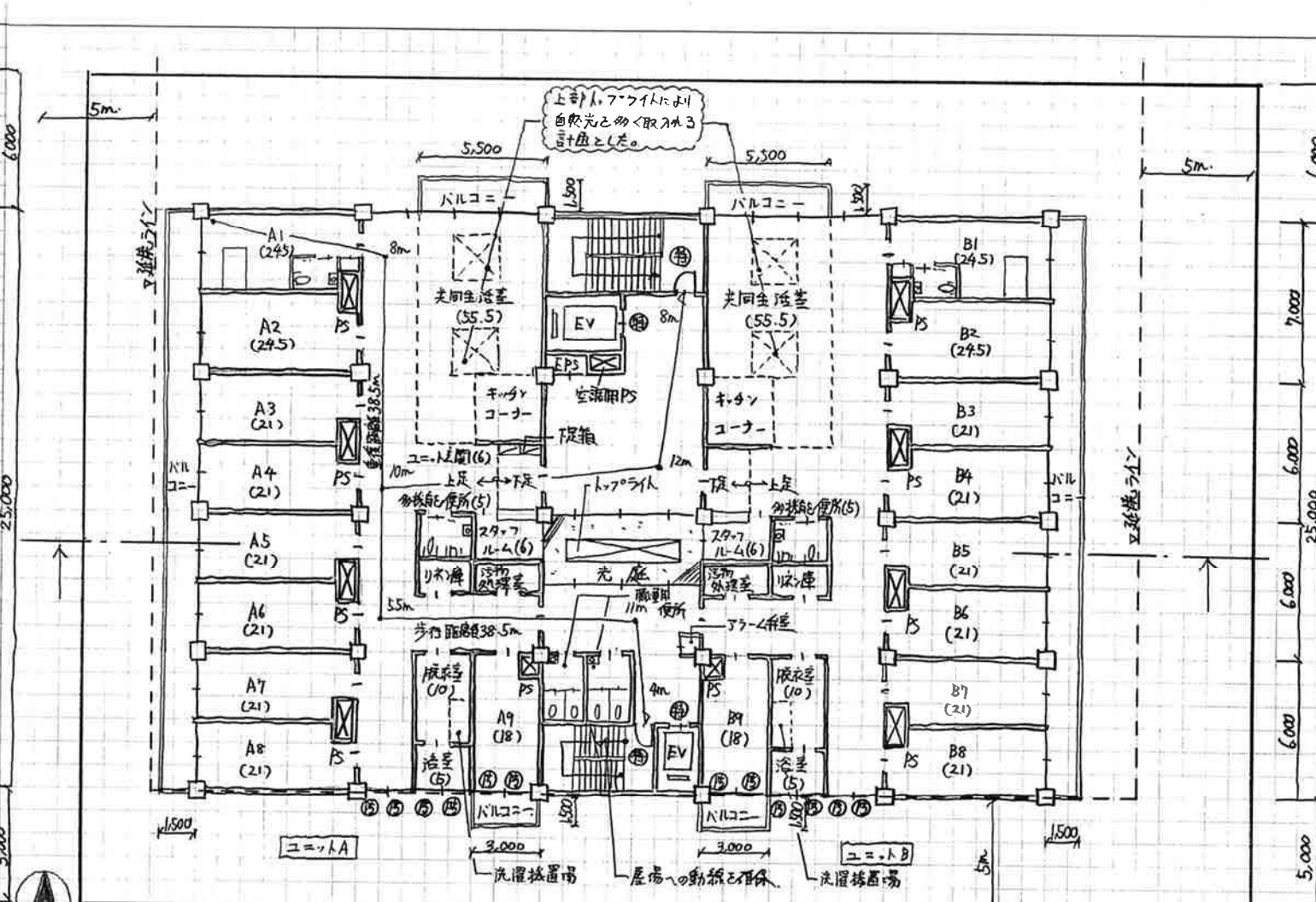
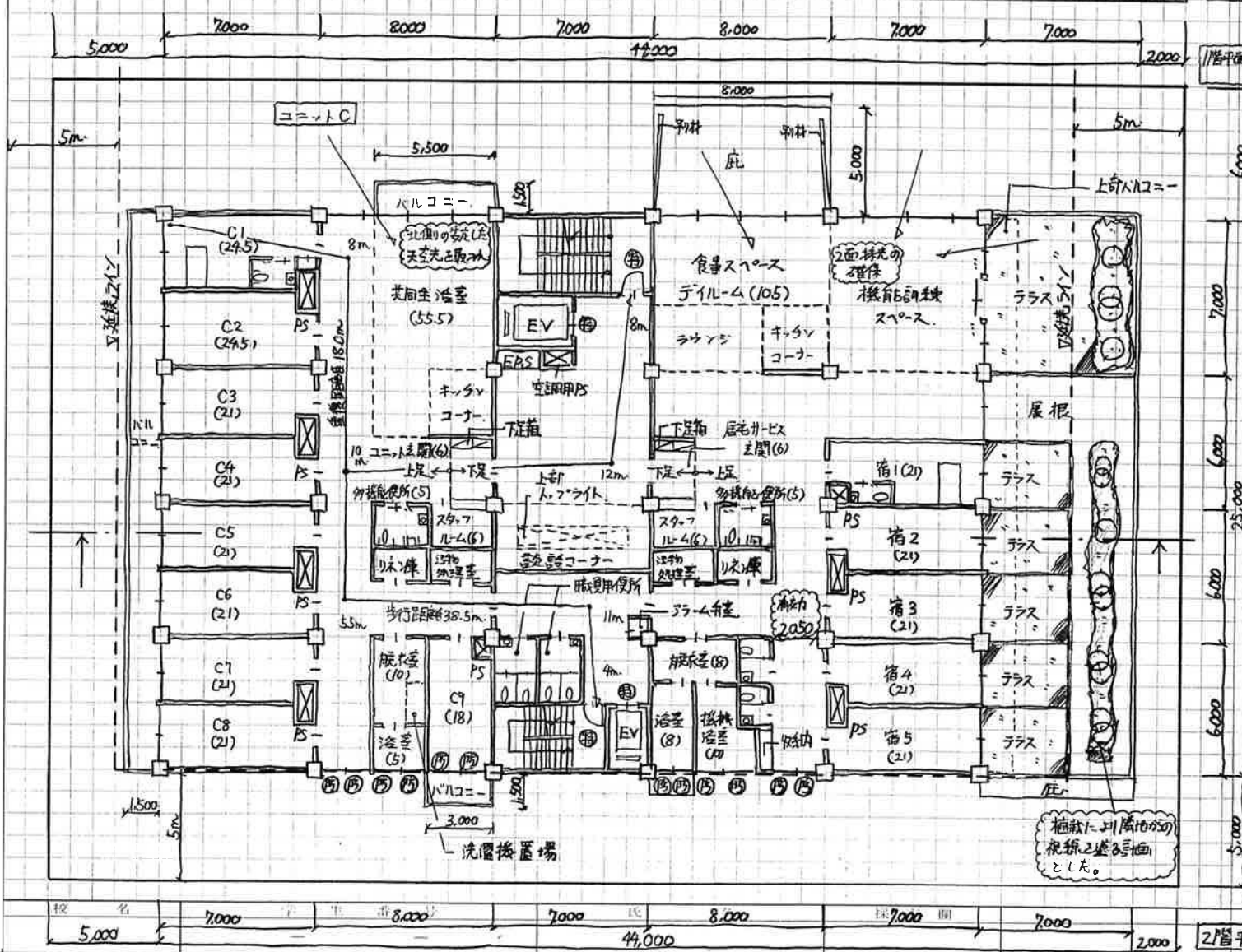
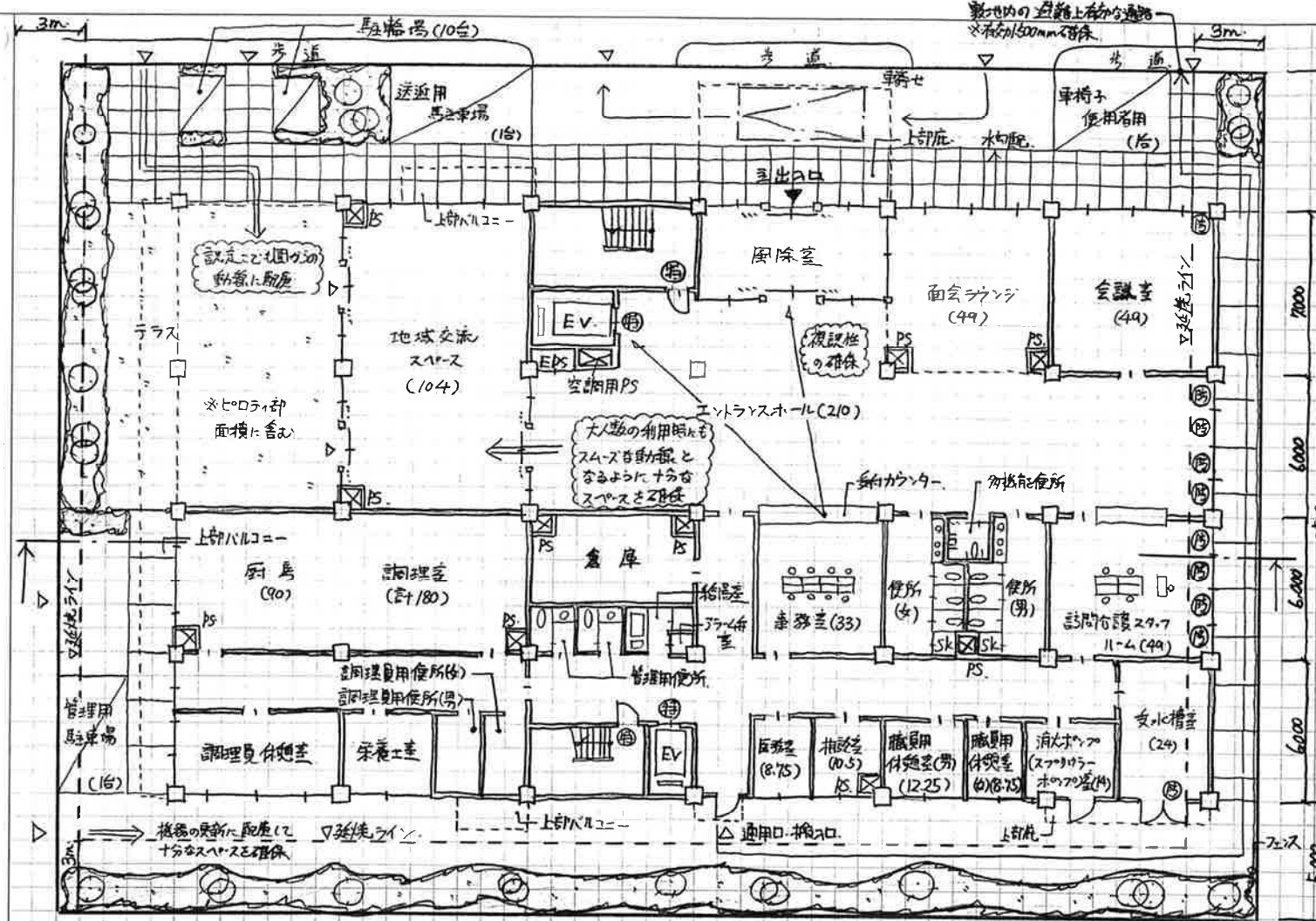




面積表

建築面積 = $(44.0 \div 1.5 - 1.0) \times 25.0 + (1.5 - 1.0) \times 5.5 \times 2 + (1.5 - 1.0) \times 3.0 \times 2 + (5.0 - 1.0) \times 8.0 = 1,153.0 \text{ m}^2$

延床面積

1F: $44.0 \times 25.0 = 1,100$
 2F: $44.0 \times 25.0 - 7.0 \times 25.0 = 925.0$
 3F: $44.0 \times 25.0 - 7.0 \times 25.0 - 7.0 \times 3.0 = 904.0$ 合計 29,290m²

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない部分についても記述する。(1)(3)(5)の図示は必須

(1) 居住部門の個室の計画において「入居者の住みやすさ」及び「介護のしやすさ」について考慮したこと

	＜入居者の住みやすさ＞ 個室の出入口部分は1000mm以上確保した他、室内には車椅子の回転スペースを確保することで利用のしやすさに配慮した。また、壁面のスイッチ・コンセント高さを通常の仕様より高く(低く)して高齢者、車椅子利用者にとって使いやすい計画となるように考慮した。 ＜介護のしやすさ＞ ベッドの両脇等にも十分なスペースを確保して介護者にとっても使いやすい計画となるように配慮した。また、便所等については有事の際に駆け付け可能なように緊急通報装置を設けて介護がしやすくなるように考慮した。
--	---

(2) 居住部門及び居宅サービス部門のスタッフルーム等介護に必要な諸室の配置について考慮したこと

各部門共にスタッフルーム等と出入口に近接した位置として、セキュリティ性を考慮するとともに見守りが可能な計画とした。また、汚物処理室等を管理部門に近接した位置とすることで動線を極力短くして衛生面についても考慮した。

(3) 共同生活室及びデイルームについて、自然光を取り込みつつ、冷房時の負荷抑制を図るために建築計画において工夫したこと(Low-Eガラスを仕様する工夫を除く)

	共同生活室、デイルームは南側と避けて安定的な天空日射を確保できる北側に設けることで冷房負荷の低減を図った。 また、3階についてはLow-Eガラスを設けるとともに2階のデイルームについては2面採光を確保することで自然光を多く取込めるように工夫した。
--	---

(4) 建築物の構造計画について、建築物の特性の応じて採用した構造種別・耐震計算ルートとそれらを採用するにあたり、耐震性を確保するために考慮したこと

構造種別：鉄筋コンクリート構造

ルート 1・②・3 建物形状は極力整形として局部的な変形の増大や応力の集中を無くして地震による外力をスラブに伝達できるように考慮した。また、構造スリットと適切な設けて構造上の弱点(短柱・短梁)がなくなるように考慮した。

(5) 車寄せの屋根・庇などとなる部分の寸法、有効高さ及び車寄せの屋根・庇などの構造計画(各種寸法、部材の材質、支持方法及び耐震性等)について考慮したこと

	長さ×短辺×厚さ：8000mm×5000mm×200mm 有効高さ：3,500mm 庇は持ち出し長さを5mとして柱を設けない構造とするため、鉄骨+スチールパネルによる構成とした。また、支持は上部からの吊り材を用いることでたわみ等を抑制して、躯体に堅固に固定することで耐震性の向上を図るように特に考慮した。
--	---

(6) 地盤条件や経済性を踏まえた、支持層の考え方、採用した基礎構造とその基礎底面のレベルについて考慮したこと

地盤条件より支持層とGL-1.5m深の砂礫層として不同沈下に対して安全性の高いベタ基礎を採用した。基礎底面は根入れを考慮してGL-2.0mとし、埋戻し部については地盤改良を行い安全性を確保した。また、ヒートと消火水槽等に活用することで経済性にも配慮した。

(7) インフルエンザやノロウイルスへの対策について、建築計画や設備計画において考慮したこと

建築計画においては建具等を抗菌仕様とするともに自然通風により新鮮空気を多く導くように考慮した。設備計画においては全熱交換器により新鮮空気と取り入れるとともに加湿器を計画して一定以上の湿度が保てるように考慮した。

(8) 高齢者介護施設としての空調方式について、採用した空調方式とその理由

空調方式：空冷ヒートポンプ・パッケージ式＋床暖房、パネヒーター

高齢者の利用に配慮して24時間運転を原則として省エネルギー性、制衛性に優れるため採用した。またヒートショック防止のため温度差が大きくなると予想される昼夜等には床暖房やパネヒーターも採用した。